

# 銀漢亭日録



伊藤伊那男

11月6日(金)▼「俳句界」一月号、渥美清の一句鑑賞。桃子誕生日。

気仙沼からは牡蠣取り寄せ。生、蒸、土手鍋に。

7日(土)▼ヘアメイクの中川さん来て、カットして貰う。伶輔君も劇団四季「ライオンキング」の出演近づいた様子で、舞台用に短くカット。

8日(日)▼土曜、阿佐ヶ谷の馬橋稲荷神社。杏の三男、雅人君の七五三の祝い。五歳。これで娘二人、孫七人、計九回の七五三を祝ったことになる。婿のご両親も見えて「木曾路」にて祝宴。あと、荻窪の馴染みの店に久々に顔を出す。

9日(月)▼「若葉」主宰の鈴木貞雄氏句集『うたの禱り』の句集評、二千五百字ほど。「若葉」誌に送る。

10日(火)▼久々、農家の野菜買いに。「銀漢」誌の校正。十九時、発行所にて「火の会」。八人。あと、「魚勝」で小酌、六人。

11日(水)▼「銀漢」誌校正。十五時半、発行所。「梶の葉句会」選句に。八月月振り位にお会いする方々も。コロナ禍また増勢と。

15日(月)▼十時、発行所。大和、武田、次郎、眞理子、秋葉男、龍吉。一斗さん司会で、銀漢十周年記念「季語別俳句集」の校正会議。昼食の三十分程を除いて二十時まで、全ページの点検を終える。この後、編集委員が分担で何回かの校正や点検に入ることになる。

16日(火)▼伊那北会で三島山中城へ。十時。三島駅集合。バスで、山中城へ向かう。富士山が美しい。二時間ほど城跡を巡り、三島大社、柿田川の湧水など。十七時過ぎ、うつぱ料理の店。刺身、蒲焼、西京漬など。あと、駅前で飲む。新幹線動かず。在来線で熱

海。新幹線動いたというので乗り換えなどばたばた。

19日(木)▼昼、荻窪、杉並法務局で手続き。近くに知己の司法書士がいたことを思い出し、訪ねると、「あつ、伊藤さん、すっかり死んでいたと思いました！」と立ち上るが。十七時、発行所。皆川丈人さんが盤水先生の使っていた歳時記を沢山届けて下さる。十八時、銀漢賞・星雲賞の選考委員会。久々、唐沢静男君、来てくれる。あと、「トミーグレル」でワイン少々で歓談。別れて「魚勝」で酒少々と鮎刺、海老天など。

20日(金)▼夜、宮澤の還暦祝に昔からの弟子達が集まるということで、私が料理を引き受ける。気仙沼の牡蠣取り寄せ。鮎刺身、味噌漬の豚トンカツ、鰯酢、鶏バジル風味焼、春雨のスープなどなど。客八名。家族七人。

21日(土)▼十三時、飯田橋の角川本社にて、「俳句」二月号の合評鼎談。二時間ほど(高柳克弘、堀田季何)。渡辺花穂さんの句集『夏衣』出版祝に「梶の葉句会」から祝句求められていたので、「一書世に問ひたる後の更衣」送る。

22日(土)▼気持のいい快晴にて散歩。初めて次大夫堀公園に入つてみる。古民家四棟、鍛冶場など。柊の花、茶の花など。櫻の葉が降る。

24日(日)▼莉子十八歳の誕生日。久々、外食しようということになり、GOTTEATを使って外苑前の「サバティニ」。私は二十年振りか。華子と連続テレビ小説「エル」の話をしている最中、華子の眼が丸くなる。なんとその「エル」に出演していた二階堂ふみさんが、隣の席に着く。

28日(土)▼大井町の四季劇場。「ライオンキング」の昼の部で、孫の伶輔十歳。ヤングシンバ役で初舞台を踏む。家族で応援に行

く。落ち着いていて、声の通りも動きも良く一安心。春、オーディションに合格し、半年稽古の成果。

30日(月)▼眼科検診。春耕ネット句会選句。からすみ用に、先日、見事な大きな卵巣を入手。塩漬、塩抜き、酒漬を終えて今日から干し始める。第二弾も塩漬中。全部で六腹。「銀漢」新年号の執筆全部終了。

12月2日(水)▼神保町の郵便局にて俳句会の資金移動手続き。アメ横「三幸商店」から信州の従兄弟に鯛と数の子送る。「吉池」で家用の買い物。十八時、発行所にて森羽久衣さんと打ち合わせ。あと、「ピストロアマン」(銀漢亭の跡地に開店)に案内を受ける、料理のレベル高い。苦境の中のスタートだが、頑張つてほしい。麦さんが合流。あと「魚勝」で小酌。町は二十二時で灯が消える。

3日(木)▼ここ数日は信州帰省の予定であったが、コロナ拡散により中止。それならと、武田さんに誘われて二十年振りくらいか、慶應「丘の会」の句会へ。田町の専売ホール。二十五人ほど。行方克巳、本井英、ながさく清江さん他。あと八人ほどで三田の蕎麦店で懇親会。あと武田、坪井氏と中華料理店でもう少々。伶輔「ライオンキング」二回目出演。このあと一週間に一度くらいで身長一五〇センチになるまで二、三年出ることになるとか。「俳句でふてふ」のエッセイ二本。

6日(月)▼いわきより、金目鯛四本。鮫鱈一本到来。さすがに鮫鱈をさばくのは初めてのこと。解体してさつと湯通し。今夜はドブ汁に。金目鯛は牛蒡と炊き合わせ。「銀漢」新年号の校正。

7日(火)▼「天為」の有馬朗人先生逝去。昔、本郷の学長室に遊びに行ったことなど懐かしく思い出す。能登の蕪餅旨い！

8日(火)▼快晴。二時間ほど散歩。夜、発行所にて超結社句会「火の会」九人。俳人協会賞最終選考委員の依頼あり、受諾。

10日(木)▼「街」誌同人評三回目。竹内編集長に投函、「季語別俳句集」二回目の校正に入る。農家の野菜買いに。祖師谷大蔵オオゼキに買い出し。

12日(土)▼『季語別俳句集』校正作業、十四時から発行所。戸矢一斗さん司会で、大和、禪次、次郎、眞理子、秋葉男さん。全頁について点検。十八時まで。

13日(日)▼家族の年賀状の写真を青山・梅窓院の竹の参道に撮りに行くというので、私も同行。宮澤家と妻の墓を皆でお参りする。夜、近所の中川家に三家族集まるとして、私に料理の依頼あり、気仙沼から生牡蠣三キログラム、ローストビーフ、鰯酢、春雨のうま煮、鮭の酒粕漬焼、チーズ盛合わせ、プロッコリー、カリフラワー、芽キャベツとトマトのマスタードソースサラダ、さつまいものスイーツ他を用意。

14日(月)▼十時半、高崎駅。伊那北会。バスにて箕輪城跡へ。秀吉に滅ぼされた後、北条の城。その前も興亡の激しい城。空っ風、さすがに群馬県。市内の江戸時代の高崎城跡も訪ねる。高崎連隊の地でもあり、名残は僅か。焼鳥屋、魚店、駅の「キリンシティ」と行き当たりばつりに三軒。城跡を巡った時より飲んでいた時間の方が長い！朝妻力さんより久々連絡受く。週末、高野山で。

15日(火)▼本部句会、支部句会など五句会ほどの選句。GOTTEATキャンペーン中止など大混乱の世相。角川合評鼎談の校正。高部氏より、女界灘の一本釣りのひらまさ一尾到来。捌き、刺身の用意。アラは大根と煮る。